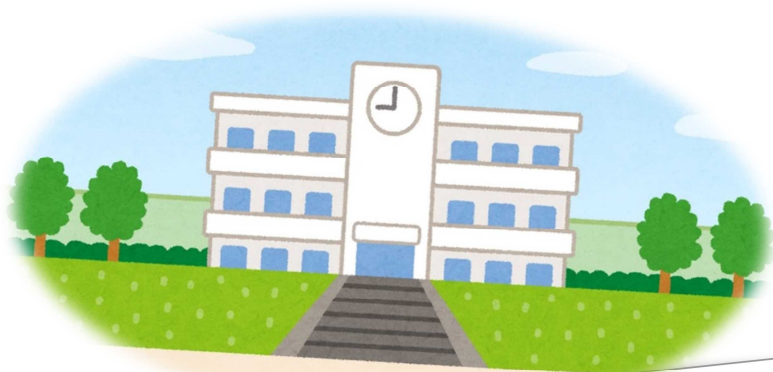


## 検討項目 3 : 中高一貫校

- 中高一貫教育校については、6年間を通して人間性等を育成する意義はあるものの、周辺地域の中学校への影響や新たな地域格差が生まれる可能性などから消極的な意見もあることから、引き続き、慎重に検討する。

(「県立高校再編の基本方針」より抜粋)

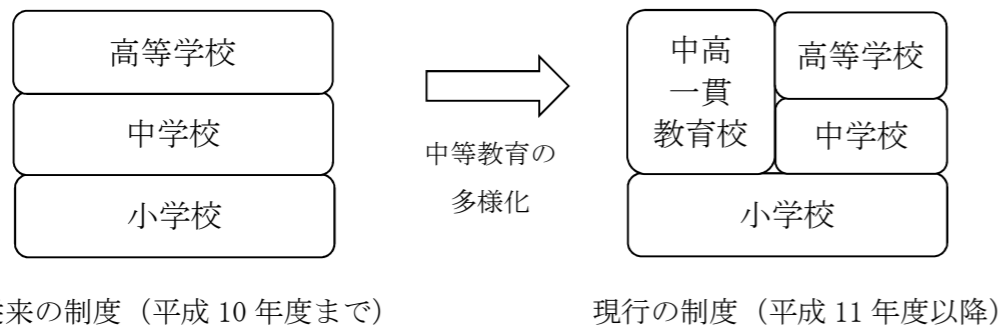


# 中高一貫教育制度について (文科省資料等より)

## 1 中高一貫教育制度

中高一貫教育は、生徒や保護者が、これまでの中学校・高等学校に加えて、6年間の中高一貫教育をも選択することができるようにすることにより、中等教育のより一層の多様化を推進するものとして、平成11年4月から制度化されている。

中高一貫教育校に、どのような学科を設けるか、さらには、どのような特色を持つ教育内容にするかは、学校の設置者である都道府県や市町村等が判断することになる。



## 2 中高一貫教育の特色

- ・安定した環境の中で、6年間の学校生活を送ることができる。
- ・6年間の計画的・継続的な教育指導を展開することができる。
- ・6年間にわたり生徒を把握することができ、個性の伸長や優れた才能を発見できる。
- ・学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し、社会性や豊かな人間性を育成できる。

## 3 中高一貫教育の実施形態

### (1) 中等教育学校

- ・1つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの。
- ・前期課程は中学校の基準を、後期課程は高等学校の基準を準用。

### (2) 併設型の中学校・高等学校

- ・高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの。

### (3) 連携型の中学校・高等学校

- ・市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態で、中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるもの。

## 4 入学者選抜

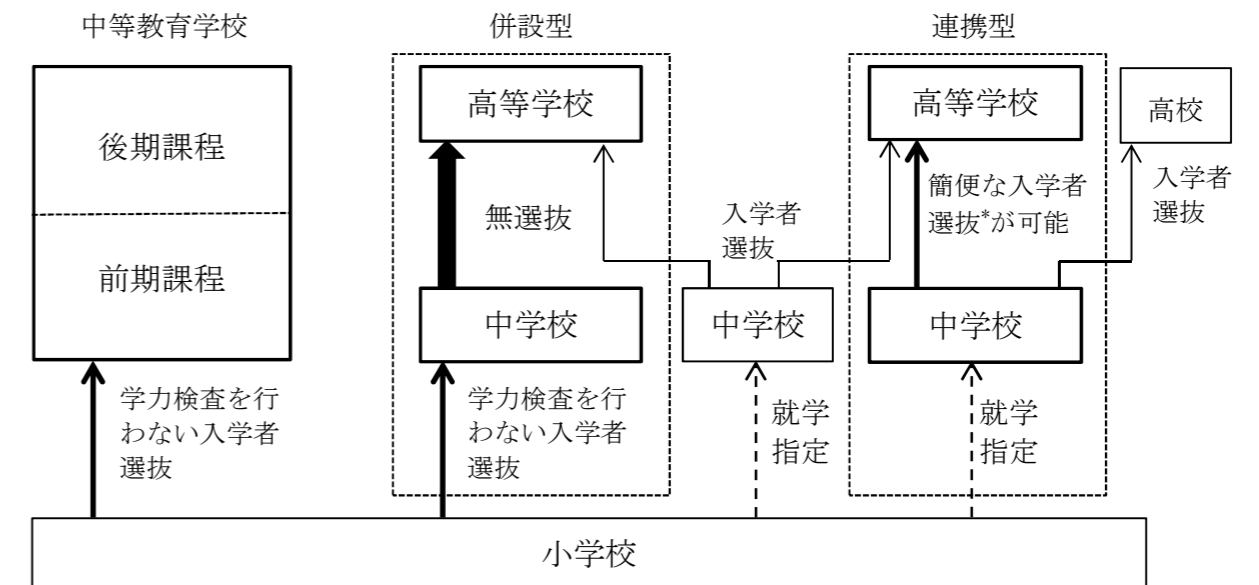
### (1) 中学入試

公立の中等教育学校や併設型中学校においては、設置者の定めるところにより校長が、入学者を許可し、この場合、学力検査は行わないこととしている。

### (2) 高校入試

併設型中学校から併設型高等学校への進学に際しては、入学者選抜は行わない。他の中学校から併設型高等学校への入学は入学者選抜が行われる。連携型については、連携型中学校から連携型高等学校への進学の場合、調査書及び学力検査の成績以外の資料により選抜できていることになっている。

[公立の場合]



\*調査書及び学力検査の成績以外の資料による選抜

平成 28 年度 都道府県立の中高一貫教育校設置状況

番号	都道府県名	中等教育学校	併設型	連携型	合計
1	北海道	1		6	7
2	青森		1	1	2
3	岩手		1	2	3
4	宮城		2	1	3
5	秋田		3		3
6	山形		1	2	3
7	福島		1	5	6
8	茨城	2	1	1	4
9	栃木		3		3
10	群馬	1		3	4
11	埼玉		1		1
12	千葉		2	1	3
13	東京	5	5	6	16
14	神奈川	2		2	4
15	新潟	6	1		7
16	富山				
17	石川		1	1	2
18	福井		1	4	5
19	山梨				
20	長野		2		2
21	岐阜			4	4
22	静岡		2	3	5
23	愛知			2	2
24	三重			2	2
25	滋賀		3		3
26	京都		3		3
27	大阪			2	2
28	兵庫	1	1	2	4
29	奈良		1	1	2
30	和歌山		5		5
31	鳥取				
32	島根			2	2
33	岡山	1	3	1	5
34	広島		1	5	6
35	山口	1	1	1	3
36	徳島		3	2	5
37	香川		1		1
38	愛媛	3			3
39	高知		3	4	7
40	福岡	1	4		5
41	佐賀		4		4
42	長崎		3	5	8
43	熊本		3	1	4
44	大分		1	2	3
45	宮崎	1	2		3
46	鹿児島		1	2	3
47	沖縄		3	3	6
合計		25	74	79	178

石川県、福井県の中高一貫教育校設置状況

(H28文科省調査等より)

【石川県】

設置年度	設置形態	設置者	学校名	1学年		H29.3入試		備考
				クラス数	定員	受検倍率	募集定員充足率	
H16	併設型	石川県	金沢錦丘中学校	3	120	1.64	100%	既設の高等学校に新設の県立中学校を併設
			金沢錦丘高等学校 普通科	8	320	1.47	100%	
H13	連携型	輪島市	門前中学校	1	40	—	—	既設の中学校と既設の高等学校の連携
		石川県	門前高等学校 普通科	2	80	0.27	34%	

【福井県】

H26	併設型	福井県	高志中学校	3	90	3.73	100%	既設の高等学校に新設の県立中学校を併設
			高志高等学校 普通科	6	234	1.47	100%	
H13	連携型	池田町	池田中学校	1	30	—	—	既設の中学校と既設の高等学校の連携
		福井県	武生高等学校池田分校 普通科	1	25	0.30	36%	
H17	連携型	あわら市	芦原中学校	1	30	—	—	既設の2中学校と既設の高等学校の連携
		あわら市	金津中学校	6	180	—	—	
		福井県	金津高等学校 普通科	7	224	1.00	100%	
H17	連携型	越前町	朝日中学校	3	90	—	—	既設の中学校と既設の高等学校の連携
		福井県	丹生高等学校 普通科	5	140	0.98	99%	
H17	連携型	若狭町	三方中学校	3	90	—	—	既設の2中学校と既設の高等学校の連携
		美浜町	美浜中学校	3	90	—	—	
		福井県	美方高等学校 普通科、家庭科	5	156	0.98	98%	

## 中高一貫教育に関する主な意見

	県立学校整備のあり方等に関する検討委員会	総合教育会議
<p><b>積極的な意見</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと個性を伸ばし、多様化する子供たちを育てる学校があってもよく、進学校の一つがそのような中高一貫校になってもよいのではないかと思う。</li> <li>・自分で自分の人生を切り拓くことができ、社会の役に立つ人材を育成するために中高一貫校を設置すべき。</li> <li>・中高一貫校が、予備校化するのではないかという危惧はあるが、県内に1校くらいあってもよいのではないかと思う。</li> </ul>	<p>—</p>
<p><b>慎重な意見</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫校ができた周辺の地域には大きな影響がある。リーダー的な存在として期待される生徒が中高一貫校へ進学することで地元の中学校が弱体化するのではないかという心配がある。</li> <li>・広域で通学できる富山県にとって他県の中山間地でのような連携型の中高一貫教育の必要性は低い。</li> <li>・設置される場所によっては、子どもを通わせることに躊躇する保護者もいて、新たな地域格差が生まれる可能性がある。</li> <li>・中高一貫教育が優秀な大学に入学させることを主な目的とする教育方針となれば疑問を感じる。</li> <li>・学力検査による入学選抜ができないため、生徒間の学力差が生ずることとなり、生徒一人ひとりにとって望ましい教育環境なのか疑問。</li> <li>・他県では、県立高校と公立中学校の連携型中高一貫校の定員充足率が低い学校もあり、心配だ。</li> <li>・保護者の間では中高一貫校があればよいという機運は高まっているとは思えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近県等の小規模な県立高校で見られるような、連携型の中高一貫校は、広域で通学できる本県にはそぐわないと思う。</li> <li>・小規模校の連携型一貫校はいずれも定員充足率が低く、福井県では廃校予定の学校も出ている。こうした連携型中高一貫校を本県に導入することは、慎重に検討する必要があると思う。</li> <li>・進学校としての中高一貫校については、「リーダー的な存在を期待される生徒が、中高一貫校へ進学することで地元の公立中学校が弱体化するのではないか」という懸念があり、慎重に考える必要がある。</li> <li>・本県では、進学校としての中高一貫校は、既に私学で取り組まれており、生徒の減少が著しい中で、あえて取り組む必要があるのか疑問である。</li> </ul>